

■8月7日

エア・カレドニア、ヌメア線増便を計画、羽田への移行は乗継旅客の需要に合わず

エア・カレドニア・インターナショナル(SB)の代表取締役社長に1月に就任したディディエール・タペロ氏は、8月6日に旅行業界誌の取材に応え、今後5年間のうちに現在朱4便で運航している、成田—ヌメア線を増便し、デイリー化したいと意欲を語った。トラベルビジョンが報じた。

エア・カレドニア・インターナショナルによると、日本路線の12年の平均ロードファクターは70%。タペロ氏はこれを「88%から90%まで伸ばしたい」考えだ。現在日本市場に対しては座席の30%を確保しており、需要が増えれば割当座席の拡張や、増便をおこなっていく計画という。

今後は日本市場で需要拡大をはかり、既存のメインターゲットであるハネムーンやOL層以外に、シニア層や学生や団体、ダイバーなど需要喚起を図りたい考えだ。

一方、13年の下期スケジュールから、成田線は成田発を夜から昼に、成田着を夜から朝に変更。これにより、行きは関空発、帰りは成田着で関空に同日乗継、といった組み合わせも可能になる。なお、羽田への就航に関しては、タペロ氏は「日本の旅行者にとって利便性は高い」としながらも、成田のヨーロッパへの接続利便性の高さを強調。同社乗客の7割以上を占めるフランス人にとっての羽田は利便性が低いため、現状としては考えていないと述べた。

(トラベルビジョン)8/6

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=5851> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=5851>)

復興航空、成田—台北線へ就航、9月26日よりDAILY運航

台湾のトランスアジア航空(復興航空)は6日、9月26日より、成田—台北(桃園)線を週7便にて新規就航すると発表した。

使用機材はエアバスA320(ビジネス12席、エコノミー138席、計150席)

同社は、すでに 関空・那覇・新千歳・函館・旭川・釧路・帯広(定期チャーター便)・新石垣(定期チャーター便)に乗り入れを行っており、成田は9都市目、9路線の酒肴となり、台湾とは週30便を運航する。

(NAAプレスリリース)8/6

http://www.naa.jp/jp/press/pdf/2013.08.06_1.pdf (-> http://www.naa.jp/jp/press/pdf/2013.08.06_1.pdf)

タイ国際航空、仙台-バンコク線就航、通年運航も検討

タイ国際航空は6日、仙台とバンコクを結ぶ初の国際定期便を就航させると発表した。まずは12月3日から3月29日までの冬季限定とし、週3往復の運航とする。同社は今後の経済成長を見込み、タイ国内から東北への旅行者が増えるかと判断。初年度の実績を踏まえ、通年運航するかどうか検討する。

使用機材はエアバスA330-300型(ビジネスクラス36席、エコノミークラス263席、299席)。同社の日本乗り入れは羽田、成田、大阪、名古屋、福岡、札幌につぐ7都市目となる。

(日経)8/7

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFB06065_W3A800C1L01000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFB06065_W3A800C1L01000/)

(河北新報)8/7

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/08/20130807t12007.htm> (->

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/08/20130807t12007.htm>)

AIR DO、7月、旅客輸送実績、L/F71.8%

AIR DOはこのほど、7月の旅客輸送実績(速報値)を発表した。これによると、全路線合計の搭乗者数は23万6,590人で、座席供給12.5%の増加に対し、旅客数は2.5%増加となった。全路線平均搭乗率は71.8%と、前年同月と比べて7

ポイント低下した。

今年就航した札幌～神戸線の搭乗率は75.8%(エアドゥ販売分のみでは68.8%)、札幌—岡山線は84.3%(同81.1%)と好調に推移している。

(日刊航空)8/7

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

エアアジア(LCC)、4～6月の乗客数、前年同月比20%増

(NNA ASIAによると)

エアアジアは5日、グループ全体の4～6月(第2四半期)の乗客数が前年同期比19.7%増の999万4,525人だったと発表した。供給座席数は17.7%増の1,247万5,260席。搭乗率は80%で前年同期から1ポイント上昇した。

乗客輸送力を表す有効座席キロ(ASK)は17.7%増の141億500万キロメートル、乗客数をフライト距離で掛けた有償旅客キロ(RPK)は20.0%増の113億5,900万キロだった。

マレーシア事業を見ると、乗客数が12.4%増の550万9,576人、供給座席数が11.9%増の689万6,880席。搭乗率は前年同期から横ばいの80%だった。

タイ事業は乗客数が25.2%増の242万3,076人、供給座席数が20.1%増の294万4,440席。搭乗率は82%で前年同期から3ポイント上がった。

インドネシア事業は乗客数が32.8%増の192万1,839人、供給座席数が32.4%増の244万4,760席。搭乗率は79%で前年同期から1ポイント上昇した。

フィリピン事業は乗客数が114.5%増の14万34人、供給座席数が37.9%増の18万9,180席。搭乗率は74%となり前年同期から26ポイント上がった

(NNA ASIA)8/7

<http://news.nna.jp/free/news/20130807myr005A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130807myr005A.html>)

エアバス、1-7月期、商用機受注数、ボーイングを超える

エアバスは1-7月期の商用機受注数で競合の米ボーイングをしのいだ。英格安航空会社(LCC)イーージージェットからの7月に中距離路線向けの単通路型機「A320」を135機という大量受注に支えられた。WSJが報じた。

エアバスの6日の発表によると、7月の商用機新規受注は174機。この大量受注で、1-7月期の正式受注(総受注数から変更・キャンセル分を差し引いた純受注数)は892機となり、2012年通期の833機をすでに大きく上回った。7月の受注分のうち7機を除く全てが、世界のLCCの主力となっている単通路型A320関連機種への注文だった。

一方、ボーイングの1-7月期(7月30日まで)の純受注数は760機で、エアバスに後れを取った。総受注数でも867機と、エアバスの932機を下回っている。

(WSJ)8/7

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324513804578652492020063864.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324513804578652492020063864.html>)